



日语教育与日本学研究

——大学日语教育研究国际研讨会论文集（2015）

·····主編／刘晓芳 副主編／杜勤 毛文伟 徐曙 钱晓波 朱卫红 张厚泉



华东理工大学出版社



日语教育与日本学研究

——大学日语教育研究国际研讨会论文集（2015）

····· 主编 / 刘晓芳

副主编 / 杜勤

毛文伟

徐曙

钱晓波

朱卫红

张厚泉



华东理工大学出版社

· 上海 ·

图书在版编目(CIP)数据

日语教育与日本学研究——大学日语教育研究国际研讨会论文集(2015)/刘晓芳主编.
—上海:华东理工大学出版社,2016.5

ISBN 978-7-5628-4624-6

I.①日… II.①刘… III.①日语-教学研究-高等学校-文集 IV.①H369.3-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2016)第 078594 号

项目统筹 / 王一佼

责任编辑 / 金美玉

装帧设计 / 戚亮轩

出版发行 / 华东理工大学出版社有限公司

地址:上海市梅陇路 130 号,200237

电话:021-64250306

网址:press.ecust.edu.cn

邮箱:zongbianban@ecust.edu.cn

印 刷 / 江苏凤凰数码印刷有限公司

开 本 / 787mm×1092mm 1/16

印 张 / 25

字 数 / 656 千字

版 次 / 2016 年 5 月第 1 版

印 次 / 2016 年 5 月第 1 次

定 价 / 198.00 元

版权所有 侵权必究

前 言

2015年5月16日上午,由中国日语教学研究会上海分会举办的"2015年大学日语教育与日本学研究国际研讨会"在上海理工大学综合楼报告厅举行了隆重的开幕仪式。这也是本研讨会首次在同济大学以外的高校举办。上海理工大学别致的小洋楼分会场和精心细致的组织安排得到了与会者的交口称赞。

来自东京大学、早稻田大学、北海道大学、名古屋大学、复旦大学等多所国内外知名高校和研究机构的国内外专家学者近150人出席了本次研讨会。开幕式后,日本奈良县国立图书情报馆馆长千田稔教授,日本大阪府立大学张麟声教授,目白大学寺崎克志教授分别为大会做了精彩的主题演讲。本次会议还设立了七个分会场,与会者分别围绕文学、教育、语言、文化、社会 and 翻译等方面宣读论文、交换看法。特邀专家针对日语翻译硕士人才培养模式展开了热烈讨论,教育部外语教学指导委员会日语分委员会前主任谭晶华教授、教育部高校专业外语教学指导委员会日语分委员会副主任许宗华教授、中国日语教学研究会常务副会长许慈惠教授分别就人才培养目标、日语翻译硕士课程设置以及教学评估标准等提出了具体的建议和意见。大会于5月17日上午11:30成功闭幕。上海外国语大学皮细庚教授为研讨会进行了总评。上海理工大学外语学院院长吕乐教授、中国日语教学研究会上海分会刘晓芳会长分别为大会致闭幕辞。

本年度的研讨会是经过教育部正式批准的国际会议,其学术影响也得到了我国日语界的普遍认同。华东理工大学出版社、新世界教育集团、卡西欧上海贸易有限公司、上海交通大学出版社等单位也一如既往地对本次研讨会的成功举办给予了大力支持。

为了更好地体现本次研讨会的成果,在华东理工大学出版社的鼎力支持下,我们继续出版了大会的论文集。其中所收录的论文也是各位与会者参加本次研讨会的成果的具体体现。我们希望继续得到各位方家的批评指正,并希望大家的共同努力之下,本研讨会越办越好,论文集的质量也越来越高,并希望借此凝聚日语教育与日本学研究的中坚力量,为我国日语界的繁荣尽一份绵薄之力!

《2015年日语教育与日本学研究国际研讨会论文集》编委会

中国日语教学研究会上海分会

2016年3月23日

目 录

日本語教育

中国語話者における〈起点〉を表す格助詞「を」と「から」の選択について	杉村泰(1)
中国の大学教科書に採録される古典——その教材内容及び指導方法の比較を中心に	笹生美貴子(5)
文語文読解教材開発に向けての指針——中国大陸・台湾地域の日本学研究者への調査から	佐藤勢紀子 虫明美喜(12)
アジアのビジネスにおける日本語	渡部順一(17)
BJ-CATビジネス日本語コンピュータ適応型テスト——超級を測る	赤木彌生(22)
「N1をN2にする」など関連構文の文法化考察——客観変化・主観評定を焦点に	張曉東(26)
表小数量的「数量詞＋も」及其对应的汉语表达形式	陈雪(31)
短期留学で行う研究活動の意義と可能性 ——日本語専攻の中国人留学生の事例を通して	田崎敦子(38)
教材編成からみる多読授業の位置づけ	伏泉(43)
Can-doステートメントを活用した学習目標の設定と評価活動の設計	彭瑾(48)
日本語文法教育におけるe-Learningダイナミック教材利用の可能性	王騰(52)
关于基础日语课和日语精读课功能实现的再思考	徐英东(57)
会話教授法に関する一考察④——社会人クラスの学生との比較を通して	澤田依子(61)
浅谈日语专业具有多维视野与能力的人才培养	朱世波 徐英东 王若楠(65)
基于视频语料库的日语配音库的建设	毕杨 韩兰灵 刘玉琴(69)
日本語学習者におけるあいさつの使用に関する困難点——中国人留学生を対象に	丁尚虎 佐藤勢紀子(73)
留学生ゼミにおける俳句制作の効果について	池間里代子(77)
閩南語話者の音声認知——特殊拍に注目して	任星(82)
日语多重句的译文组织方法探索	张秀梅(87)
日中翻訳の「ということである」についての一考察	趙雪(92)
小学低年级语文学科口语教育的中日比较研究——以课程标准和教科书为中心	洪优(97)
现代短歌在日语文言语法教学中的应用实例——结合俵万智的『サラダ記念日』	金中(103)
关于集体讨论中视点的汉日对比研究	田黎 贾琦 张琪琬(108)

日本语学

- 关于指称语段的“连体指示词+名词”结构 马兰英(117)
- 和語複合動詞における逆語順の構成と意味について
——「考えアワセル」と「アワセ考える」を例として 李東哲(122)
- 近义词“途中・中途”的语义韵与类联接对比研究 李倩(128)
- 日语“一方(いっぽう)”的跨从句语法化考察——兼与汉语“一面”比较 黄小丽(133)
- 论日语使役和被动的句法语义接点 傅冰(138)
- 「ツアー」の日本語化に関する一考察 金永嘉(143)
- 態と語順が日本語文産出時の処理負荷に与える影響について 孫猛 小泉政利(148)
- 語の意味と構文の制約 黄春玉(152)
- 从前题——焦点的视角看日语条件句 徐秀姿(156)
- 个性化与人性化教学的有力实证——微课外语教学 文钟莲(163)

日本文学

- 平安女流文学者の漢籍受容——清少納言と紫式部 胡秀敏(169)
- 『肥前国風土記』における松浦郡の説話について 梁海燕(173)
- 『源氏物語』における「末摘花」の中国語訳に関する再検討 徐迎春(178)
- 官妓詩人薛濤と遊歴詩人原采蘋の対比研究——成功の陰の内面の葛藤 小谷喜久江(183)
- 謡曲『石橋』をめぐる獅子舞文化の一考察 雨宮久美(191)
- かな文字と和歌——古今歌の形成 加藤由佳理(198)
- 论日本女性主义文学文本中女性形象的嬗变 李先瑞(203)
- 从《晚菊》看林芙美子的反战思想及其成因 牟海晶 于丽芬(210)
- 吉本芭娜娜和申京淑的比较研究——以“家庭”主题为中心 张彩虹(215)
- 樋口一叶文学作品中女性的主体意识 王霞 李璠(220)
- 试析大江健三郎《广岛札记》中的反核思想 何建军(224)
- 安岡文学における政治的スタンス——『流離譚』を中心に 魏鈞原(231)
- 「春の鳥」の「鳥」について 朱田云(237)
- 日本现代经济小说的浅析 周晓杰(242)
- 荻村俳句“五月雨大河岸边房两间”赏析 胡兴荣(249)
- 谷崎潤一郎「秘密」論——「私」という人間像の表と裏 朱衛紅(257)

日本经济文化与社会

- モダン都市上海と東京——カフェを通して見る女給の世界 董春燕 楊本明(262)
- 中国におけるTVドラマ『半沢直樹』の受容
——文化的要素はどのように受け取られたか 保坂敏子 呉川(268)
- PBLによる新商品開発と販売戦略 佐藤飛鳥(273)
- 江戸时期日本儒者对华夷思想解读的脉络性转移 范业红(278)
- 从回避断定表达看日本文化——以「とか」为中心 李璠 王霞(286)
- 试析近代日本哲学思想的基本特征 张婷婷(291)

研究生论文

日本の中学校国語科における「論理的に書く」カリキュラムの一考察 ——東京書籍『新しい国語』の場合	李義翹(294)
『新編日語』(修訂本)における受動表現に関する一考察	李麗萍(299)
漢語連濁の通時的研究について	呂建輝(304)
语言规划視阈下冲绳的日语教育推行状况考察 ——以“废藩置县”至“复归本土”的近百年间为主	李菁菁(309)
中日大学生接触場面の初対面会話における話題開始 ——ラポールマネジメントの視点から	季珂南(314)
「～始める」と「～出す」の共通点と相違点について——動詞分類の視点から見る	桂安琪(319)
対話における配慮表現をめぐって	孫天琪(323)
浅谈中日汉字字形相似的表记偏误问题	揭瑶函(331)
名为“共生”的监禁状态——大江健三郎《空中怪物阿贵》的再解读	刘苏曼(336)

特别单元

中国人から見た日本人の言語表現心理	俞彭年(342)
-------------------------	----------

中国語話者における〈起点〉を表す格助詞「を」と「から」の選択について

名古屋大学 杉村泰

1 はじめに

筆者のところには毎年80~100人ほどの中国語を母語とする日本語学習者(以下、「中国語話者」と呼ぶ)から研究生になりたいとのメールが来る。そのうちの3割ぐらいは例(1)のように「大学を卒業した」を「*大学から卒業した」と書いてくる。

(1) 私は中国の〇〇大学(*から→を)卒業した〇〇と申します。

みな日本語能力試験 N1合格レベル以上の高い日本語能力を持っているにもかかわらず、意外にもこのような初級レベルの日本語を間違える。そこで本稿では中国語話者における〈起点〉を表す格助詞「を」と「から」の選択について論じることにする。

2 先行研究

日本語の〈起点〉を表す「を」と「から」の選択について、三宅(1995)は次の2つの規則があることを指摘している。

・意志的にコントロールされない移動の場合は、ヲ格を使うことができない。

(2) 煙が煙突{*を/から}出た。

(3) 太郎が部屋{を/から}出た。

・着点をも同時に含意する場合は、ヲ格を使うことはできない。

(4) 太郎が部屋{*を/から}庭に出た。

しかし、例(3)のように意志的にコントロールされる場合の「を」と「から」の選択基準についても説明が必要である。この点について杉村(2005)では、「を」と「から」の二者択一式によるアンケート調査によって、日本語話者と中国語話者の「を」と「から」の選択傾向の違いを明らかにしている。本稿では新たにコーパス調査の結果を示すとともに、杉村(2005)の調査結果を統計的に分析する。

3 コーパス調査

まず、中国語話者の実例から「を」と「から」の選択傾向を比較する。「湖南大学学習者中間

言語コーパス^①のうち19回目の「卒業とは」というタイトルの作文データ(2012年12月21日実施、4年生75人)を見ると、中国語話者は〈起点〉を表す場合に「を」よりも「から」を選択しやすいことが分かる。

〔コーパス調査の結果〕

- ・「～から卒業する」20件、「～を卒業する」4件、「～に卒業する」1件
- ・「～から離れる」4件、「～を離れる」1件
- ・「～から出る」5件、「～を出る」0件

4 アンケート調査

次に日本語話者と中国語話者に対してアンケート調査を行い、「を」と「から」の選択傾向の違いを見る。

4.1 アンケートの概要

次のような「を」と「から」の二者択一式の問題を14問作成し、被験者に「を」と「から」のうちどちらか一つを選ばせた。

質問 次の文の()に格助詞「を」「から」のうち、正しいと思う方を一つ入れて下さい。

1. 私は毎日7時に家()出る。
2. 彼はアメリカの有名大学()出た。 (他全14問)

〔被験者〕

・日本語話者

名古屋大学1年生58人

(2004年11月18日、名古屋大学で実施)

・中国語話者(合計149人)

北京第二外国語学院日語系4年生50人

(2004年11月24日、北京・北京第二外国語学院で実施)

上海外国語大学日本文化経済学院4年生50人

(2004年11月29日、上海・上海外国語大学で実施)

東呉大学日本語文学系4年生49人

(2004年11月30日、12月2日、24日、台北・東呉大学で実施)

4.2 杉村(2005)の指摘

本アンケートに関して、杉村(2005)では、「から」が第一義的に〈起点〉を標示するのに対し、「を」は広い意味で〈働きかけの対象〉を標示するものであることを主張した。すなわち、A 地点から B 地点への移動に重点がある場合は「から」が選択され、そこでの活動に終止符を打ち、次へのステージに移ることに重点がある場合は「を」が選択される傾向があることを指摘した。このことから、例(5)のように単にそこからの離脱を表す場合には「から」の方がふさわしく、「を」を使うと家出して別のところに行ってしまうようなニュアンスになることが説明できる。

(5) 台風の時は家{から/?を}出るな。地震の時は家{から/?を}出る。

また、杉村(2005)では、中国語話者は日本語話者に比べて「を」を選ぶ人の割合が低いこと

① 平成22～25年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号22320093)「中国国内における日本語学習者の縦断的中間言語コーパスの構築と動詞の習得過程の解明」(研究代表者：杉村泰)による。

を指摘した。

4.3 日本語話者と中国語話者の選択傾向

表1 日本語話者と中国語話者の「を」または「から」を選択した頻度と一様性の検定の結果

質問文	日本語母語話者 (58人)			中国人日本語学習者 (149人)		
	を	から	一様性の検定	を	から	一様性の検定
1. 私は毎日7時に家()出る。	58	0	—	108	41	$\chi^2(1)=30.13, p<.001$
2. 彼はアメリカの有名大学()出た。	58	0	—	69	80	$\chi^2(1)=0.81, ns$
7. 母は夕食の支度をするために4時にデパート()出た。	52	6	$\chi^2(1)=36.48, p<.001$	100	48	$\chi^2(1)=18.27, p<.001$
6. 彼女は大学()出て、まっすぐ家に帰った。	51	7	$\chi^2(1)=33.38, p<.001$	80	69	$\chi^2(1)=0.81, ns$
4. 彼女は家()出て一人暮らしを始めた。	50	8	$\chi^2(1)=30.41, p<.001$	94	55	$\chi^2(1)=10.21, p<.001$
10. 彼はヤクザの〇〇組()出る決心をした。	49	9	$\chi^2(1)=27.59, p<.001$	87	62	$\chi^2(1)=5.20, p<.05$
5. 彼は学歴詐称が見つかって、大学()出ることにした。	39	19	$\chi^2(1)=6.90, p<.01$	83	65	$\chi^2(1)=2.19, ns$
11. 彼は刑務所()出て、すぐに捕まった。	38	20	$\chi^2(1)=5.59, p<.05$	71	78	$\chi^2(1)=0.33, ns$
13. 彼女は裏門()出て、すぐに車にはねられた。	26	32	$\chi^2(1)=0.62, ns$	56	93	$\chi^2(1)=9.19, p<.01$
12. 地震でつぶれたビル()出た。	7	51	$\chi^2(1)=33.38, p<.001$	46	103	$\chi^2(1)=21.81, p<.001$
3. 先生がいたずらをしている学生に、「教室()出なさい」と言った。	5	53	$\chi^2(1)=39.72, p<.001$	88	60	$\chi^2(1)=5.30, p<.05$
8. 警察が犯人に、「そのビル()出ろ」と言った。	5	53	$\chi^2(1)=39.72, p<.001$	37	112	$\chi^2(1)=37.75, p<.001$
9. 犯人は逃げる時、裏口()出てきた。	5	53	$\chi^2(1)=39.72, p<.001$	37	112	$\chi^2(1)=37.75, p<.001$
14. 夫が知らない女の子の家()出てきたのを見た。	4	54	$\chi^2(1)=43.10, p<.001$	40	109	$\chi^2(1)=31.95, p<.001$

注: 未記入は欠損値として扱った。一様性の検定はカイ二乗分布による分析である。網掛け部分は「を」「から」のうち有意に多く選択された方を示す。

次に、日本語話者と中国語話者の「を」または「から」を選択した頻度と一様性の検定の結果を表1に示す。表中の網掛け部分は「を」と「から」のうち有意に多く選択された方を示している。これを見ると、日本語話者は「を」と「から」をかなり明確に使い分けているのに対し、中国語話者は日本語話者が「から」を選択する場合には「から」を選択しやすいものの、日本語話者が「を」を選択する場合には「を」と「から」の選択で迷いやすいことが分かる。また、表2は質問文を日本語話者と中国語話者の選択傾向によりクラスター分析したものである。これにより、同じ「～{を/から}出る」でも日中語話者の選択傾向に様々な違いがあることが分かる。今後はこの結果をさらに分析していきたい。

表2 クラスター分析の結果

質問文	日本語話者 58 人		「を」 の割合	中国語話者 149 人		「を」 の割合
	を	から		を	から	
1. 私は毎日7時に家（ ）出る。	58	0	1.00	108	41	0.72
7. 母は夕食の支度をするために4時にデパート（ ）出た。	52	6	0.90	100	48	0.67
2. 彼はアメリカの有名大学（ ）出た。	58	0	1.00	69	80	0.46
5. 彼は学歴詐称が見つかって、大学（ ）出るようになった。	39	19	0.67	83	65	0.56
6. 彼女は大学（ ）出て、まっすぐ家に帰った。	51	7	0.88	80	69	0.54
11. 彼は刑務所（ ）出て、すぐに捕まった。	38	20	0.66	71	78	0.48
3. 先生がいたずらをしている学生に、「教室（ ）出なさい」と言った。	5	53	0.09	88	60	0.59
13. 彼女は裏門（ ）出て、すぐに車にはねられた。	26	32	0.45	56	93	0.38
4. 彼女は家（ ）出て一人暮らしを始めた。	50	8	0.86	94	55	0.63
10. 彼はヤクザの〇〇組（ ）出る決心をした。	49	9	0.84	87	62	0.58
8. 警察が犯人に、「そのビル（ ）出ろ」と言った。	5	53	0.09	37	112	0.25
9. 犯人は逃げる時、裏口（ ）出てきた。	5	53	0.09	37	112	0.25
12. 地震でつぶれたビル（ ）出た。	7	51	0.12	46	103	0.31
14. 夫が知らない女の家（ ）出てきたのを見た。	4	54	0.07	40	109	0.27

参考文献

- [1] 楠本徹也.「を」格における他動性のスキーマ[J].東京外国語大学留学生日本語教育センター論集第28号,東京外国語大学留学生日本語教育センター,2002;1-12.
- [2] 杉村泰.起点を示す格助詞「を」と「から」の使い分け[J].ことばの科学第18号,名古屋大学言語文化研究会,2005;109-118.
- [3] 三宅宏宏.ヲとカラー起点の格標示—[C]//宮島達夫・仁田義雄(編).日本語類義表現の文法(上)単文編.東京:くろしお出版,1995;67-73.

作者信息

氏名: 杉村泰

役職名: 教授

所属機関: 名古屋大学

連絡先住所: 名古屋市千種区不老町 B4-5(700)

メールアドレス: sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp

中国の大学教科書に採録される古典 ——その教材内容及び指導方法の比較を中心に

日本大学 笹生美貴子

はじめに

中国の大学教科書に採録される日本の古典教材は、『万葉集』『古今集』『源氏物語』『枕草子』『方丈記』『平家物語』『今昔物語集』など、とりわけ日本の古典教育で扱う内容と共通する部分が多く確認できる。中国において、このように、日本古典を学習する環境が整っていることは見逃せない。だが、近年、日本では、学習者の古典離れ・古典嫌いが深刻となっており、国語教師側の頭を悩ませる科目として位置付けられている背景がある(御手洗舞(2015)により指摘されている)。その解決の糸口として、教える側(国語教師側)によるスキルアップ・グローバル化教育に対応するための知識の多様化—を計ることも有効と考える。

本稿では、中国と日本の教科書における教材内容及指導方法の比較をすることにより、見えてくること——日本が今後求められる古典教育の展望と課題——について試みに論じる。加えて、古典指導という枠の中で、国際的視野を養っていくことの有効性についても触れる。その手段の一つとして、外国において日本の古典教材がどのように指導されているのか注目する。日本の国語教師が、外国での日本古典における指導方法を知ることにより、日本における従来の古典教育の指導に、新たに活かすことのできる点があることを試みに論じてみたい。とりわけ、日本の古典に大きな影響を及ぼした中国において使用されている教科書内容・指導方法との比較検討を行う。教材は、『源氏物語』に注目する。

1 古典教材から国際的視野を養う視点について

高校において、古典を学習する目的の一つとして、国際的視野を養うことが昔から定められている。文部科学省が告示する『高等学校学習指導要領』『国語』には、自国の文化や伝統の尊重を通じて、国際理解を深める精神を養う点が明記されている。古典教育に注目すると、『国語総合』の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では「言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること」とあり、「古典 A」では「古典などを読んで、言語文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解すること」「中国など外国の文化との関係について理解を深めるのに役立つこと」、「古典 B」では「古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること」とある。このように、日本の高校では、古典を通じて国際理解、とりわけ中国の文化との関係について理解を深めることが目的の一つとして明示

されている。

以上のことから、日本における高校の古典教育の一つの目標として、伝統文化の尊重から国際理解へと視野を広げさせるような教育方針が強調されるようなかたちで掲げられていることがわかる。だが、浅田孝紀(1994)などの指摘するように、現場ではまだ追いつかず、課題となっているところが多い。

2 日本の中高教科書における『源氏物語』について

教科書に掲載されている多くの作品のうち、日本古典文学の最高峰として位置付けられるといっても過言ではない『源氏物語』について述べる。有馬義貴(2014)や田中幹子・及川貴大(2008)においても指摘されているように、古典は中学においても学習するが、『源氏物語』は、中学ではあまり取り扱われない傾向にある。よって、『源氏物語』を本格的に勉強するのは高校からである。ここでは、高校教科書において『源氏物語』のどの巻が採録されているかについても注目したい。2013年に検定合格となった「古典」教科書(10社23種類)において、『源氏物語』がどのように扱われているか調査した結果を提示する。出版社名『教科書名』(教科書の記号・番号)、『源氏物語』抜粋部分の巻名、その他『源氏物語』に関する解説やコラム等がある場合は、備考欄に「見出し」を記した。

1. 東京書籍『古典 A』(古 A・301)

「夕顔」「賢木」「初音」「蛭」「若菜上」「柏木」「橋姫」「浮舟」「夢浮橋」

【備考】ハルオ・シラネ「サイディンステッカーと『源氏物語』の自然観」を掲載。「文学史における『源氏物語』」「六条院」

2. 教育出版『古典文学選 古典 A』(古 A・302)

「桐壺」「若紫」「須磨」「瀟標」「薄雲」「野分」「御法」「幻」

3. 右文書院『説話(古今著聞集・沙石集・十訓抄・竹取物語)随筆(徒然草・枕草子・方丈記・常山紀談・花月草紙・蘭東事始)故事・小話 漢詩 史話』(古 A・303)

該当なし

4. 右文書院『源氏物語・大鏡・評論』(古 A・304)

「桐壺」「夕顔」「若紫」「須磨」「明石」「玉鬘」「蛭」「野分」「御法」「東屋」「浮舟」「夢浮橋」

【備考】『無名草子』『紫式部と『源氏物語』」

5. 第一学習社『高等学校 標準古典 A 物語選』(古 A・305)

「桐壺」「夕顔」「若紫」「葵」「須磨」「薄雲」

【備考】『『源氏物語』と石山寺」

6. 東京書籍『新編古典 B』(古 B・301)

「桐壺」「若紫」

【備考】「その後の若紫」

7. 東京書籍『精選古典 B 古文編』(古 B・302)

「桐壺」「若紫」「葵」「須磨」「薄雲」「若菜上」「御法」

【備考】『『源氏物語』が語りたかったこと」

8. 三省堂『高等学校古典 B 古文編』(古 B・304)

「桐壺」「夕顔」「若紫」「葵」「須磨」「薄雲」「藤裏葉」「若菜上」「御法」「幻」「夢浮橋」

- 【備考】「源氏物語玉の小櫛(本居宣長)もののあはれ」
9. 三省堂『精選古典 B』(古 B・306)
「桐壺」「夕顔」「若紫」「須磨」「薄雲」「御法」
【備考】「源氏物語玉の小櫛(本居宣長)もののあはれ」「広がる源氏物語の世界」
10. 教育出版『古典 B 古文編』(古 B・307)
「桐壺」「若紫」「帚木」「花宴」「葵」「薄雲」「若菜上」「御法」
【備考】「『源氏物語』の成立」
11. 教育出版『新編 古典 B 言葉の世界へ』(古 B・309)
「桐壺」「若紫」
【備考】「『源氏物語』の成立」
12. 大修館書店『古典 B 古文編』(古 B・310)
「桐壺」「若紫」「葵」「須磨」「薄雲」「若菜上」「御法」「橋姫」
【備考】「『源氏物語』の影響—日本的な美」
13. 大修館書店『精選 古典 B』(古 B・312)
「桐壺」「若紫」「葵」「須磨」「若菜上」「御法」「橋姫」
【備考】「『源氏物語』の影響—日本的な美」
14. 大修館書店『新編古典 B』(古 B・313)
「桐壺」「若紫」
【備考】「源氏物語への招待」「『源氏物語』の影響—日本的な美」
15. 数研出版『古典 B 古文編』(古 B・314)
「桐壺」「若紫」「須磨」「藤裏葉」「若菜上」「御法」「浮舟」
【備考】「源氏物語」「『源氏物語』以降の物語」
16. 明治書院『精選 古典 B 古文編』(古 B・316)
「桐壺」「若紫」「葵」「須磨」「野分」「若菜上」「御法」
【備考】「平安女流文学と後宮の女房」
17. 明治書院『高等学校 古典 B』(古 B・318)
「桐壺」「若紫」「葵」「野分」
18. 右文書院『新編 古典』(古 B・319)
「桐壺」「夕顔」「若紫」「葵」「須磨」「御法」
19. 筑摩書房『古典 B 古文編』(古 B・320)
「桐壺」「若紫」「須磨」「薄雲」「若菜上」「御法」
20. 第一学習社『高等学校 古典 B 古文編』(古 B・322)
「桐壺」「若紫」「須磨」「濤標」「藤裏葉」「御法」「橋姫」
【備考】「貴族の呼び名—官職と階位—」
21. 第一学習社『高等学校 標準古典 B』(古・324)
「桐壺」「若紫」「須磨」「薄雲」
【備考】「『源氏物語』と石山寺」「貴族の呼び名—官職と階位—」
22. 桐原書店『探求古典 B 古文編』(古 B・325)
「桐壺」「若紫」「葵」「若菜上」「御法」「浮舟」
【備考】「海を越える『源氏物語』」「原文を読み解く魅力」
23. 桐原書店『古典 B』(古 B・327)

「桐壺」「若紫」「葵」「若菜上」「御法」「浮舟」

【備考】「海を越える『源氏物語』」「原文を読み解く魅力」

以上、平成25年(2013年)に合格した(10社23種類)の高校教科書における『源氏物語』採録箇所(巻)の詳細について提示した。そこからわかることとしては、まず、教科書採録において、『源氏物語』最初の巻で光源氏誕生の描かれる「桐壺」巻と、光源氏とヒロイン紫の上の出会いの場面が描かれている「若紫」巻が選ばれやすい傾向にあることがうかがえる。この傾向については、有馬義貴(2014)にも指摘されているように、平成25年(2013年)以前の教科書にも見られる。後で詳しく述べるが、中国の大学教科書の『源氏物語』採録箇所(巻)の状況と共通している。

また、年々、宇治十帖の採録箇所が増えている。例えば、2003年の「古典」教科書は10社19種類が検定合格となっているが、そのうち宇治十帖を採録しているものは2種類にとどまっていた。だが、下線部にあるように、今回調査した2013年の教科書では、23種類中9種類の教科書が宇治十帖に関係する巻を採録していた。さらに、宇治十帖のうちの「橋姫」巻が4種類の教科書に採録、「浮舟」巻が5種類の教科書に採録されていることは興味深い。「橋姫」巻は、宇治十帖の始発部分を語る重要な巻であるし、「浮舟」巻は、『源氏物語』最後のヒロイン浮舟と匂宮の恋模様が描かれるなどする。正編では、「桐壺」「若紫」二巻が集中的に採録されるのに対し、続編では「橋姫」「浮舟」巻二巻が採録される傾向になりつつあるようである。

3 日中における指導方法の相違

中国の大学教科書に採録される日本の古典教材は、日本の古典教育にて扱う内容と共通する部分が多く確認できる。ここでは、両国の『源氏物語』「桐壺」巻冒頭部分の教科書内容と指導方法に焦点をあてて、考察を試みることにする。

まず、『源氏物語』「桐壺」巻冒頭部分において、とりわけ中国の故事や中国のことを示す単語に、どのような注釈を付けているのか確認する。〈日本〉高校教科書は紙幅の関係により下記の5種類、〈中国〉大学教科書は手元にある教科書の中で注の付けられている、張龍妹主編(2006)『日本古典文学入門』(外語教学与研究出版社)を調査対象とし、管見の限りを述べたい。

【『源氏物語』「桐壺」巻冒頭部分の本文】

①いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。…(中略)…上達人、上人などもあいなく②目を側めつつ、いとまばゆき人の御おぼえなり。③唐土にも、かかる事の起こりにこそ、世も乱れあしかりけれと、やうやう、天の下にも、あじきなう人のもてなやみぐさになりて、④楊貴妃の例もひき出でつべくなりゆくに……。

(※『源氏物語』本文の引用は、『新編日本古典文学全集』に拠る。)

【〈日本〉高校教科書の注釈】

①いづれの御時にか

・教育出版『古典 B 古文編』(古 B・307)「該当なし」

- ・大修館書店『古典 B 古文編』(古 B・310)「該当なし」
- ・明治書院『高等学校 古典 B』(古 B・318)「どの帝の御代であつたろうか」
- ・筑摩書房『古典 B 古文編』(古 B・320)「どの(帝の)御代であつたろうか」
- ・第一学習社『高等学校 古典 B 古文編』(古 B・322)「どの(帝の)御代であつたろうか」

②目を側めつつ

- ・教育出版『古典 B 古文編』(古 B・307)「京師長吏為之側目」(陳鴻「長恨歌伝」)による表現。楊貴妃が玄宗皇帝の寵愛を受けて楊氏一族が榮華をきわめたことに対する「京師長吏」(都の役人)の反感をいう」
- ・大修館書店『古典 B 古文編』(古 B・310)「該当なし」
- ・明治書院『高等学校 古典 B』(古 B・318)「わけもなくたびたび目を背けて」
- ・筑摩書房『古典 B 古文編』(古 B・320)「該当なし」
- ・第一学習社『高等学校 古典 B 古文編』(古 B・322)「該当なし」

③唐土

- ・教育出版『古典 B 古文編』(古 B・307)「該当なし」
- ・大修館書店『古典 B 古文編』(古 B・310)「該当なし」
- ・明治書院『高等学校 古典 B』(古 B・318)「該当なし」
- ・筑摩書房『古典 B 古文編』(古 B・320)「該当なし」
- ・第一学習社『高等学校 古典 B 古文編』(古 B・322)「該当なし」

④楊貴妃の例

- ・教育出版『古典 B 古文編』(古 B・307)「中国の唐の玄宗皇帝の寵妃。玄宗が楊貴妃を溺愛して国政を顧みなかったために、安史の乱を招き、唐が滅びる遠因となった」
- ・大修館書店『古典 B 古文編』(古 B・310)「唐の玄宗皇帝が楊貴妃を溺愛して政治を顧みず、その結果安録山の乱が起こってしまったという先例」
- ・明治書院『高等学校 古典 B』(古 B・318)「七一九～七五六年。中国唐の玄宗皇帝の寵姫。安録山のときに殺された」
- ・筑摩書房『古典 B 古文編』(古 B・320)「唐の玄宗皇帝の寵妃。玄宗は楊貴妃を寵愛するあまり、国政を顧みず、安録山らの反乱を招いた」
- ・第一学習社『高等学校 古典 B 古文編』(古 B・322)「七一九～七五六。唐の玄宗皇帝に愛された美女。安史の乱のときに殺された」

【〈中国〉大学教科書の注釈】

①いづれの御時にか

- ・張龍妹主編(2006)『日本古典文学入門』(外語教学与研究出版社)“意为不知是哪个天皇的朝代。「御時」指天皇的治世。「にか」是由断定助动词「なり」的连用形和系助词「か」组成的，下面省略了「ありけむ」。有人认为这句话是受到了白居易《长恨歌》‘汉皇重色思傾国’的影响。‘汉皇’一词掩盖了杨贵妃故事的真实年代，「いづれの御時」也起到了把故事发生的年代朦胧化作用。这位天皇就是作品虚构、由后来的读者命名的‘桐壶天皇’”

②目をそばめつつ

- ・張龍妹主編(2006)『日本古典文学入門』(外語教学与研究出版社)“陈鸿《长恨歌传》中‘京师长吏为之側目’中‘側目’一词的训读。为下文中引出杨贵妃作了铺垫”

③唐土

・張龍妹主編(2006)『日本古典文学入門』(外語教学与研究出版社)“中国。具体指我国唐朝”

④楊貴妃のためし

・張龍妹主編(2006)『日本古典文学入門』(外語教学与研究出版社)「該当なし」

以上、提示した教科書の注からわかることを述べる。まず、「①いづれの御時にか」の注。〈日本〉高校教科書では「該当なし」、もしくは当該部分の現代語訳の補足説明にとどまる。それに加えて、〈中国〉大学教科書では、品詞について解説を加えた後、下線部にあるように『源氏物語』『桐壺』巻と『長恨歌』の影響についても解説を加えている。次に、「②目を側めつつ」の注。桐壺更衣が桐壺帝の寵愛を独占している状態を目の当たりにした部下達の批判的な視線が描かれているところであり、ここは、『長恨歌伝』に描かれる玄宗皇帝と楊貴妃を巡っての部下達の批判的な描写と重なり合う表現でもある。〈日本〉高校教科書では、「該当なし」、もしくは当該部分の現代語訳の補足説明にとどまるものが大半であった。だが、その中でも、教育出版『古典 B 古文編』だけは、下線部にあるように、『長恨歌伝』の引用をしつつ、当該表現と中国文学との関わりについて、他社の教科書よりも一歩踏み込んだかたちで解説を加えている(教育出版は、他に2種類の教科書(『古典文学選 古典 A』(古 A・302)、『新編 古典 B 言葉の世界へ』(古 B・309))を出しているが、その教科書の注もほぼ同様のものとなっている)。〈中国〉大学教科書においても、『長恨歌伝』の詩句が深く関わっていることを説明している。「③唐土」についての注は、〈日本〉高校教科書ではそこまで重要視されていないようである。〈中国〉大学教科書では、簡単ながら注が付されていた。「④楊貴妃のためし」についての注は、〈中国〉大学教科書には記されていなかった。恐らく、楊貴妃については解説を加えるまでもない項目として判断したか、①②の注で玄宗皇帝と楊貴妃のことについて大方解説をしているためであろう。〈日本〉高校教科書では、楊貴妃に関する出来事について若干の解説を加えている教科書が多く確認できた。とりわけ、教育出版、大修館書店、筑摩書房の注に記載されているように、玄宗皇帝が楊貴妃を溺愛しすぎて国政を顧みなかったことが、国の滅びるそもそもの原因となっていたことを強調して解説する教科書も見られる。そこには、桐壺帝と桐壺更衣との関係を、玄宗皇帝と楊貴妃に比定させて物語を読み解く方法が、よりわかりやすく提示されているといえよう。

以上のことから、中国では『源氏物語』を学習させる際、中国文学との影響関係をクローズアップさせて教える傾向がうかがえる。〈日本〉高校教科書においても、こうした外国文学との関連に関する部分をより積極的に掲載していくことが必要と考える。またそれを、現場に立つ教員がよく理解し、指導していく必要がある。こうした部分を地道に改善していくことで、高校教育の課題でもある、伝統文化の尊重から国際理解へと視野を広げさせるような教育方針を実現させていくことに繋がっていくのである。

なお、中国における大学教科書の『源氏物語』採録箇所(巻)についても言及しておく。張龍妹・曲莉(2008)『日本文学 上編』(高等教育出版社)では、「桐壺」「若紫」「須磨」。張龍妹主編(2006)『日本古典文学入門』(外語教学与研究出版社)では、「桐壺」であった。この傾向は、日本での『源氏物語』正編の採録状況と同じと言える。数多くある巻の中で、『源氏物語』の共通した場面を両国の学習者が学ぶことは、知識を深めるだけにとどまらず、国境を越えての共通理解を養うということにも繋がるのであり、両国にとって効果的な学習環境を形成することに役立っていると言えよう。

〈日本〉高校教科書と〈中国〉大学教科書における、他作品に見られる比較については紙